

2022年5月12日

～社会変革を見据えた新たなビジネスの創造に向けて～
「メタバースプロジェクト」始動

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：船曳 真一郎）は、中長期的な社会変革を視野に入れ、外部知見を積極的に活用する社内外横断のプロジェクトを展開します。プロジェクト第1弾として、仮想空間であるメタバースが浸透した未来を見据えた「メタバースプロジェクト」を3月から始動し、新たなビジネスをデザインする業界初のメタバース上の拠点「GDH（グローバル・デジタル・ハブ）メタ」の開設と、世界最大のVRイベントであるバーチャルマーケットへ出展します。

当社は今後も、社会変革につながる新たな領域について、社外のパートナーとともにプロジェクトを組成し、従来の保険会社の機能にとどまらない商品やサービスの開発に取り組んでいきます。

1. 背景

官民連携による宇宙開発の進展やAIによる自動運転技術の向上等、経済や産業構造、社会の在り方は急激に変化しています。あらゆるリスクに対応する保険会社にとっても新たな領域に果敢に挑戦し、イノベーションを積極的に生み出す取組が求められています。

コロナ禍を契機に、メタバース市場は2020年の5,000億ドルから2024年に8,000億ドルに成長すると予測されています。現在はゲームやライブなどのエンタテインメント、社会交流の場としてのプラットフォームが中心ですが、NFT（非代替性トークン）を始めとするブロックチェーン技術の導入により、今後はメタバース上の経済活動が活性化すると見込まれています。

一方で、メタバースの普及により関連する技術や利用者の不確実性は増し、予想外の損失が発生するリスクもあります。当社は、メタバースで発生する損失を補償する商品・サービスの提供等を通じて、メタバースのさらなる普及とすべての方が安心して参画できる環境づくりを支援するために、本プロジェクトを立ち上げました。

2. 「メタバースプロジェクト」の取組内容

（1）GDHメタの新設【業界初】

メタバース上の新ビジネス創出拠点として「GDHメタ」を開設します。社内外の多様なプレイヤーとの交流やメタバースを活用した保険ビジネス、新規事業の創出につなげます。

当社は、2018年度からグローバル拠点への事業の相互展開や国内事業におけるシナジー効果発揮を目的に、米国をはじめ5つのGDHを展開してきました。今般、6つ目となる「GDHメタ」を開設し、仮想空間も含めた体制を構築します。

（2）新たな商品・サービス等の開発

先端技術を活用した新規事業推進の知見を有するPwCコンサルティング合同会社と共同でメタバースが社会にもたらす変化を分析し、サービス提供者やプラットフォーム、利用者等におけるリスクの特定や損失を補償する商品・サービスを開発します。さらに、メタバース業界団体への加盟や他業種の企業、専門家とも協議し、新たな価値観を持つ将来世代のお客さまとの対話の場として、実空間とメタバースを横断する新しい保険加入プロセスや顧客接点等を構想していきます。

（3）バーチャルマーケットへの出展【業界初】

国内外から100万人を越す来場者数を誇る世界最大のVRイベント「バーチャルマーケット 2022 Summer」に出展します。開催期間は8月13日から28日の16日間で、新しい時代の到来に向けて保険のイメージを刷新するようなブースを企画しています。

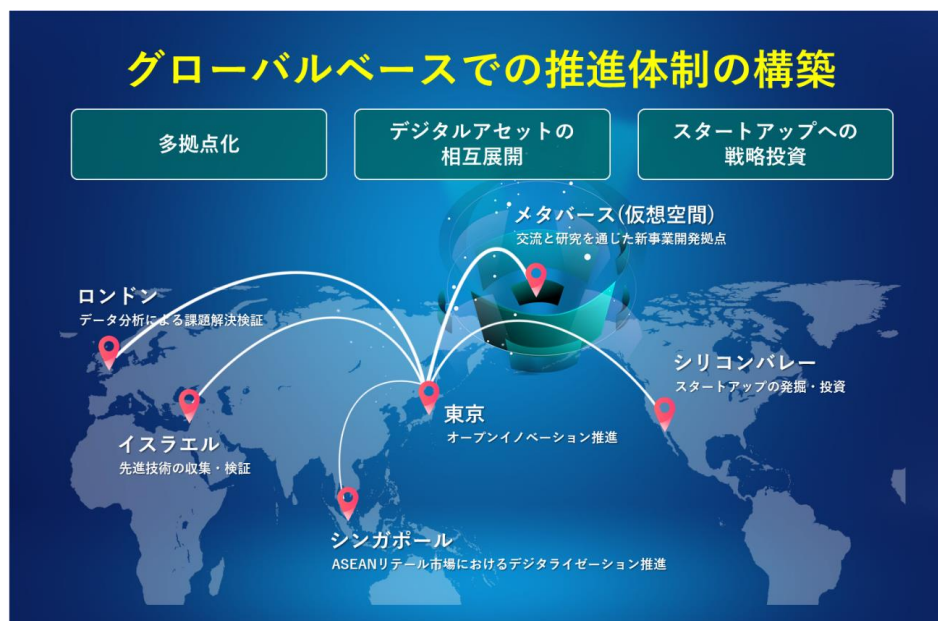
（4）プロジェクトメンバー

当社のコーポレート、損害サービス、営業の部門横断メンバーに加え、グループ会社であるMS&ADインターリスク総研、三井ダイレクト損保、外部企業のPwCコンサルティング等で構成します。

3. 今後の展開

今後は、本プロジェクトをMS & ADグループ内にも展開するとともに、サイバーリスクや宇宙開発等の領域についてもプロジェクトを組成し、新たな商品・サービスの開発に取り組んでいきます。

<ご参考>各国で展開する三井住友海上のGDH



以上